

石原文雄 いしはら ぶみお

小説家。明治三十三年二月三日山梨縣西八代郡市川

大門町生れ、昭和四十六年四月歿（一九〇一七）。本名文夫。筆名中澤

文雄。大正七年山梨縣立農林學校卒。中村星湖、加藤武雄の師事し、

十五年日本農民文藝會の機關誌『農民』に處女作『贅澤病』を發表。

昭和十二年雜誌『新潮』四月號のへ新進作家特輯の短篇『山村の人

人』が載る。この間『中澤文雄詩集』（昭和十二年五月）『山梨

・七人會』を處女出版。十五年山内（やまうち）中澤文雄（いしはら）と雑誌『中部文藝』を創刊、

その第五輯に發表した『斷崖の村』が十六年上半年期の芥川賞候補にな

り、また『太陽樹』（昭和十六年八月十八日文昭社）が第五回新潮社

文藝賞候補となつた。他に『現代の河』（昭和十七年十一月）『二十五

錦城出版社』『新日本文藝叢書』（満洲開拓の父東宮大佐と加藤完治）（昭

和十九年五月一日潮文閣）等刊行。

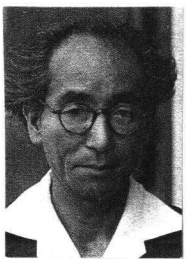
二十二年山梨文化協會を結成、二十八年には友人等と雑誌『文化人』

を創刊し、著作も短篇集『斷崖の村』（昭和二十一年七月）『十五高

須書房』（『夢魔の街』（昭和二十二年十一月）二十一年愛知・中部文

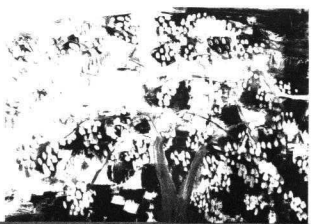
藝社『中部文藝叢書』）等刊行。歿後『石原文雄作品集』（平成八年

十二月）『二十二年石原のり』石原章夫刊）が出版せられた。



### 石原文雄作品集

石原文雄



われ土より生まれ、土に返る！  
土を愛し、土と共に生きる。自然の恵みと農民たちの  
愛の力で、本来の人間の生活を復元する。現代の  
弊、腐敗の上、ふるいは限りなくの上に立てられて生きる  
人びとを生かす。その真摯な作家生活から、山  
村に生かす人々の生きかたを語りかける。